

体育教師のイメージ形成要因に関する一考察

— 学生及び体育教師への意識調査を通して —

東ゆりこ（東京学芸大学）

1. 目的

本研究の目的は、学習者が持つ体育教師のイメージに対する形成要因と体育教師自身が抱く体育教師のイメージについて検討することで、今後の体育教師の在り方や教員養成段階における新たな知見を提示することである。

2. 研究方法

本研究の課題を明らかにするために3つの調査を行った。

- 1) 対象者①大学生・大学院生（448名）
②中学・高校保健体育教師（93名）
③中学・高校保健体育教師（2名）

2) 調査方法

- ①説明的文章完成法を用いた質問紙調査
- ②質問紙調査
- ③調査②に対する追加インタビュー調査

3) 分析方法

- ①イメージと形成要因のカテゴリー化，形成要因の出現頻度の算出
- ②因子分析（IBM SPSS Statistics29を用いた検定），自由記述分析
- ③インタビューで得られた口述に対する解釈

3. 結果と考察

【調査①】体育教師のイメージは，①体育教師の振る舞い，②体育教師の性格・身体・運動能力，③体育教師との関わり，④学びの経験，⑤授業以外での役割，⑥メディア・文化的影響といった要因から形成されていることが示唆された。形成要因の出現頻度を算出したところ，「体育教師の振る舞い」項目の出現頻度が高く，「学びの経験」要因が著しく低かった。

【調査②③】これまでの体育教師のイメージから，

あえて離れようとする体育教師の存在が示唆された。このような意識や行動は，「役割距離」（ゴッフマン：佐藤訳，1985）と呼ばれ，体育教師が自身が自身の職業に誇りや愛着を持っているからこそ，従来のイメージとは違う「体育教師らしくない」行動をしていると考えられた。

3つの調査より，体育教師のイメージ形成要因のメカニズムが明らかになった（図1）。また，体育教師のイメージ形成には，「体育教師の振る舞い」が強く影響していることや，実際に求められるイメージを振る舞ったり，演じたり，あえてイメージから遠ざかろうとする体育教師の姿が示唆され，体育教師のイメージの問題は，体育教師自身の問題だけではなく，体育教師を取り巻く人や社会の問題であるといえるだろう。

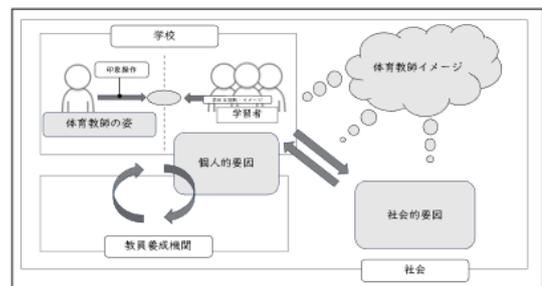


図1 体育教師のイメージ形成メカニズム

4. 結論

本研究より，体育教師のイメージは，主に「体育教師の姿」，「個人的要因」，「社会的要因」から形成されていることが明らかとなった。体育教師の姿からイメージが形成される理由については，生徒や同僚といった関係性の中で，求められるイメージや役割を体育教師が振る舞ったり，演じたりしていることが示唆された。

5. 主な参考文献

- 1) E・ゴッフマン：佐藤毅ほか訳（1985）出会い 相互行為の社会学。誠信書房：東京。